

Q6：「地域とともにある学校」づくりとはどのようなことか。

A： 「地域とともにある学校」とは、学校に関わる大人同士が「どのような子どもに育てたいのか」「何を実現していくのか」という目標やビジョンを共有し、学校と地域がパートナーとして連携・協働しながら学びを展開していく学校のことである。

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、それらの課題の解決や未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠である。この教育を実現する上で、これまでの「開かれた学校」から更に一步踏み出し、「地域とともにある学校」へと転換していくことが重要である。

そのためには、学校と地域の双方で、連携・協働を推進していく組織的・継続的な仕組みを構築していく必要があり、地域における様々な人材や団体等をつなぐコーディネーターを配置することなども求められる。

現在、「地域とともにある学校」づくりを推進する有効な仕組みとして「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）」、地域が学校と協働する体制として「地域学校協働本部」があり、県内でも導入する市町が増えてきている。

◇ 学校と地域が目標やビジョンを共有するために

「地域とともにある学校」の運営には、以下の3つの視点をもっている必要がある。

- (1) 熟議
多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話のこと。活発な議論により、的確に多くの人の意見を反映し、協働活動につなげる。
- (2) 協働
同じ目的・目標に向かって対等の立場で協力し共に働くこと。熟議で共有された目標やビジョンに向かって、具体的に活動する。
- (3) マネジメント
校長のリーダーシップのもと、教職員全体がチームとして力を発揮できるようにしていくこと。目標やビジョンが達成できるように学校内の組織体制だけでなく、地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行っていく。

◇ 「地域とともにある学校」の例



◇ 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）による効果

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）は、「地域とともにある学校」づくりへ転換を図るための有効な仕組みである。この仕組みを導入することで、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となった特色ある学校づくりを推進していくことができる。

(1) 組織的・継続的な体制の構築

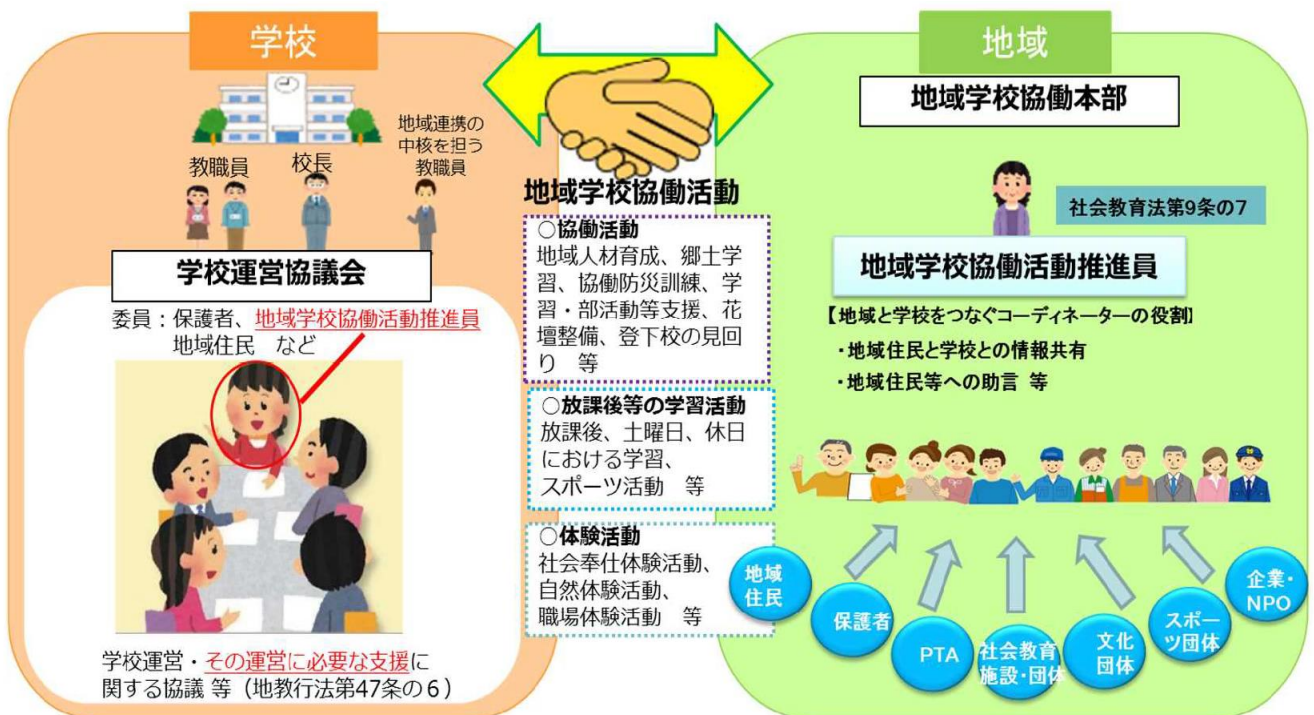
校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続する「持続可能な仕組み」にできる。

(2) 当事者意識・役割分担

学校運営協議会や熟議の場を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できる。

(3) 目標・ビジョンを共有した「協働」活動（＝地域学校協働活動）

校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者が当事者意識をもち、役割分担をもって連携・協働による取組ができる。



◇ 地域学校協働本部による効果

地域学校協働活動は、地域の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動である。この活動を推進する体制が「地域学校協働本部」である。地域の人々や団体により「緩やかなネットワーク」を形成しながら、地域と学校が連携・協働していくことができる。

この体制の整備において、地域の人々や団体と学校との情報共有や連絡調整などを行うコーディネーターの役割が重要である。コーディネートの仕組みを整えることで、地域の人的なネットワークが広がり、幅広い協力体制のもとで協働活動を推進していくことができる。

【参考資料】

- ・新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の H27.12 中教審
在り方と今後の推進方策について（答申）
- ・コミュニティ・スクール 2018～地域とともにある学校づくりを目指して～ H30 文科省
- ・「学校運営協議会」設置の手引き コミュニティ・スクールのつくり方 R01.10 文科省